

## 平成29年度第1回北海道子どもの未来づくり審議会 子ども部会 議事録

【日時】平成29年8月2日（水）10:00～16:00

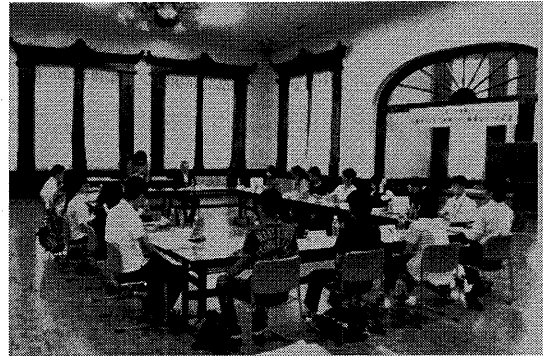
【場所】道庁赤れんが庁舎 2階2号会議室

### オリエンテーション

・事務局より、日程・注意事項などの説明

### 名刺交換

・富田部会長と子ども部会委員の名刺交換



### 開 会

・司会～保健福祉部子ども未来推進局 丸田主査



### 部会長挨拶

【富田部会長】

それではみなさん改めましておはようございます。部会長を務めさせていただく富田です。今日は17名の中学生・高校生の皆さんに全道各地から集まっていただきました。私も子ども部会の委員として、皆さんと一緒に北海道の少子化、それから人口減少の問題について考えていきたいと思ひます。

ここに集まった皆さんは、私も含めて本日初めて会ったばかりですので、まだ緊張していると思ひますけれども、リラックスして普段どおりの姿で議論に参加していただけたらと思ひます。

それから、今日は少子化や人口減少の問題を踏まえた上で、これからの北海道について議論していただきますが、例えば少子化については全国で問題になっていますので、皆さんも新聞やテレビなどで「少子化」という言葉を耳にしたことはあると思ひます。

地域の子どもの数が少なくなって学校が閉校してしまったりとか、あるいは自分が卒業した小学校や通っている中学・高校のクラス数が減っているなど、皆さん自身も少子化について、身近なところで実感していることがあるのではないのでしょうか。

こうした少子化の問題をすぐに解決することは難しいですが、北海道の将来を担う若い皆さん方が、ぜひこの機会に、少子化の問題を自分たちの問題として捉え、改善に向けてどのようなことが必要なのか、考えていただきたいと思います。

今年度は、皆さんに「若者の保育士体験の機会を通して、子育て支援の充実を考える」というテーマで検討をしていただきます。平成28年度に、皆様方の先輩にあたる子ども部会の委員の方がまとめた提言項目をもとにして設定したテーマとなります。

子育て支援の現状ですとか、保育園や幼稚園などでの体験の機会をどのように確保するか、他の方法はないかなどを、今日の午前中の見学、それから皆さん方自身の体験を大切にしながら、今回と12月に予定されている2回目の部会、2回にわたって一緒に解決方を検討していきたいと思います。

今日は長時間の会議となりますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

## 委員の自己紹介

### 【嘉津山詩恩委員】

南幌町立南幌中学校の嘉津山詩恩と申します。

少子化については、私のまちでは3つあった小学校が1つになって、中学校では、たくさんあった部活とか教室が少なくなったり、使われなくなったりしているので、そこから少子化って身近に感じるものだと思います。

今日はよろしくお願いいたします。



### 【島田佳奈委員】

おはようございます。私は北海道千歳高等学校からきました島田佳奈と申します。別に生徒会長とかやっているわけではないのですが、千歳のシニアリーダーつばさというボランティア、子ども会に入っていて、そこで会長をやらせてもらっています。

身近に感じることは、昨年まで自分たちでキャンプを運営しているんですけど、子どもが100人近くいたのが今年は50人と半分以上減っていて、少子化が近いんだなというのを身近に感じています。

今日はよろしくお願いいたします。

**【大野秀征委員】**

おはようございます。小樽市立桜町中学校の2年生、大野秀征です。

学校では生徒会の副議長ということで、たいして高い位でもないんですけど、少子化について思うことは、嘉津山さんが述べられていたのもそうなのですが、小樽市の中でも毎年のように小中学校がどんどん閉校になっていて、僕が小学校に入ったころよりもかなり減っているというのが現状です。

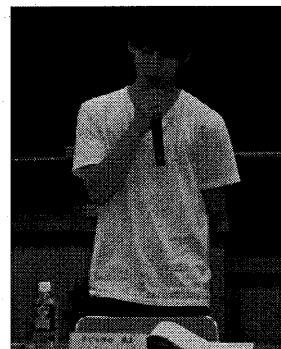
その小中学校の中でも格差っていうがあるので、それはなんなんだろうなということを日々思っています。今日はよろしくお願いします。



**【澁木佳人委員】**

伊達高校3年の澁木佳人です。自分は生徒会副会長をやっています。

少子化を身近に感じることは、授業で調べたら、自分のまちは、約20年前と比べると人口が半分になっていて、そこで、授業を通して減っているなって感じました。今日はよろしくお願いします。



**【大平絵梨委員】**

おはようございます。えりも町立えりも中学校3年の大平絵梨です。

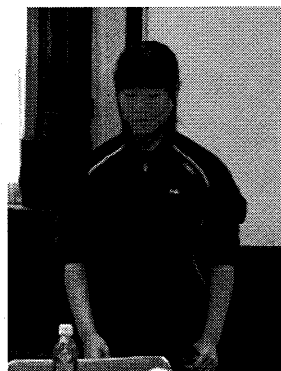
学校では生徒会議長をやっています。身近に感じたことは、私のまちは漁師町で田舎なのでとても人が少なく、特に漁師の方は高齢者が多いので、少子化が進むと若い人たちの漁師が減って行って、伝統が途絶えてしまうなと思っています。今日はよろしくお願いします。



**【加藤嵩佳委員】**

皆さんおはようございます。北海道知内高等学校からきました、加藤嵩佳です。

最近少子化で感じていることは、地元の小学校とかが、昔は30人3クラスあったって聞いていたのですが、今は1クラス15人くらいしかいないというのを聞いて、少子化って本当に身近に感じてきて、もう少し増えてきたらいいなって思っています。今日はよろしくお願いします。

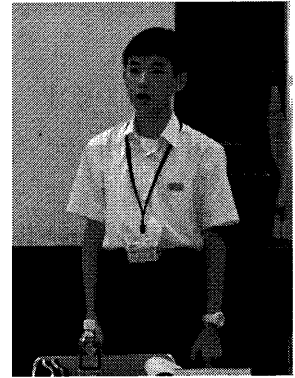


### 【中野弘成委員】

江差町立江差北中学校から来ました中野弘成です。

少子化について感じていることは、僕の学校は小中一貫ということで小学生と触れ合う機会が多いのですが、その小学校の1年生は人数が10人以下という、とても少ない人数になっていて、少子化を身近に感じています。

この課題の改善策が少しでも見つければいいなと考えています。今日はよろしくをお願いします。



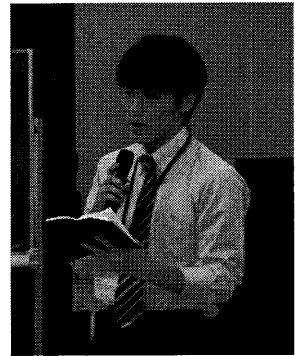
### 【鈴木元委員】

皆さんおはようございます。私は北海道のへそから来ました鈴木元と申します。へそというのは北海道の中心のことで、富良野という街です。皆さんもぜひ覚えてください。

私は北海道富良野高等学校の2年生で、富良野市の子ども会事業の青少年ボランティアサークル「ねびる」に所属しています。そのサークルは子どもたちとよく関わるサークルで、今年の8月10～12日に夏のリーダー研修会というイベントがあるのですが、ここで子どもたちと一緒にレクリエーションを行ったり、様々な体験を行ったりします。また、富良野の高校の授業で

「演劇」という授業があるのですが、それも特色があります。少子化については、私たちが「ねびる」で企画するイベントに参加する子ども達が、年々減っているというのが少し気になります。

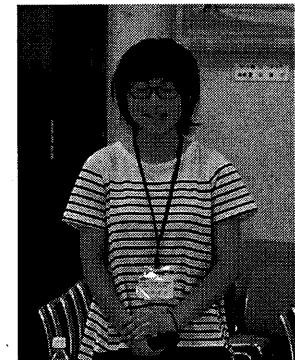
今日は減多にない関わり合いの中で楽しんでいければいいなと思います。皆さんよろしくをお願いします。



### 【中澤花菜委員】

おはようございます。留萌市立港南中学校から来ました、中3の中澤花菜です。まず学校で少子化について感じることは、先生方の話だと、もっと前はクラスがいっぱいあったということをよく聞いていて、学校でも空き教室が沢山あるので、それで子どもが減っているのかなって思う事があります。

でも、普段はあまり少子化について考えることがないので、今日はいい機会だなと思っています。よろしくをお願いします。



### 【三田詩穂委員】

おはようございます。北海道枝幸高等学校2年、三田詩穂です。

少子化について最近思うことは、この前、自分の母校の枝幸小学校に行ったのですが、自分が卒業した時より50人以上も全校の児童が減っていて、5年でこんなに変わっちゃうんだなって思って、すごい衝撃でした。最近思った事です。今日は一日よろしくをお願いします。

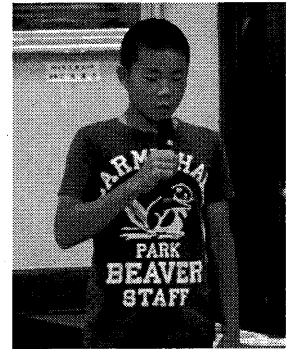


**【森谷蒼太委員】**

皆さんおはようございます。北見市立温根湯中学校から来た3年の森谷蒼太です。

一応僕は生徒会長をやっている、最近少子化を身近で感じることは、今僕の中学校の全校生徒は、前はもっといたんですけど、21人しかいません。

それで、この話し合いで、その少子化を解決できる策を思いつければなと思います。よろしくお願いします。

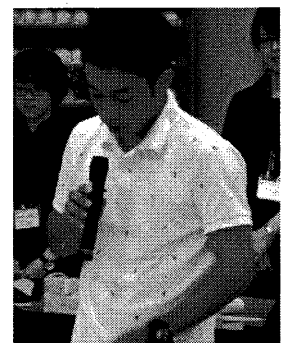


**【福島虎太郎委員】**

おはようございます。帯広緑陽高等学校から来ました福島虎太郎です。学校では学級委員長をやっています。

最近少子化について考えていることは、十勝管内の高校のクラスの数が減っていて、また高校が合併しているので、少子化だと考えています。

今日はよろしくお願いします。



**【久山結生委員】**

皆さんおはようございます。釧路町立富原中学校から来ました久山結生です。釧路町では年々少子化が進んでいて、私が卒業した小学校も、かつては1000人を超えるマンモス校だったのですが、来年の2年生からクラスが1クラス減ってしまい、マンモス校だったころの全校生徒の数が半分になっています。

このような少子化について皆さんと話せる機会をもらえたことを、とても嬉しく思います。少子化の対策について、少しでも力になれるように頑張るので、どうぞよろしくお願いします。



**【澤田侑香委員】**

根室西高等学校から来ました、2年生の澤田侑香です。

私の通っている高校は2年生・3年生しかなくて、全校生徒数は53名です。私の学年が最後の卒業生で、閉校してしまうので、少子化を実感しています。今日はよろしくお願いします。



### 【大西瑠奈委員】

皆さんおはようございます。札幌大谷中学校の大西瑠奈です。

私は私立中学に通っているのですが、クラスの人数が減ったとか、そういうことを身近に実感したことはそんなに多くはないんですけども、今まで培ってきた経験を生かして皆さんとお話できればなと思っています。

今日はよろしくお願いします。



### 【一戸晴香委員】

北海学園札幌高校2年生の一戸晴香です。北海学園札幌高校は札幌市にある私立の高校です。私も大西さんと同じく私立の高校だし、住んでいる場所も札幌なので、あまり少子化とかを感じたことはないです。

私自身あまり子どもが欲しいと思っていないので、今回の話し合いで、将来子どもが欲しいなと思えるようになったらいいなと思っています。

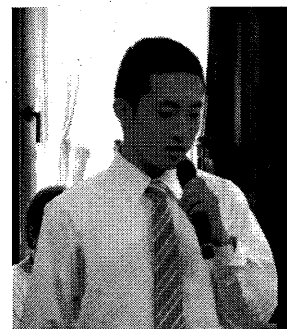
今日はよろしくお願いします。



### 【枝廣一生委員】

みなさんおはようございます。北海道岩見沢高等養護学校から来ました、枝廣一生です。

少子化について最近思うことは、地元の私が卒園した幼稚園が、2つほどあったんですけど、去年から少子化の影響で1つになってしまって、やっぱり少子化が身近に進んでいるんだなって思いました。自分が今いる岩見沢高等養護学校も、10年前までは全校生徒が500人近くいたのですが、今になってみると全校生徒60人位しかいない状況です。やっぱりすごいスピードで少子化が進んでいるんだなって思って、その対策を今回知れたらいいなと思います。今日はよろしくお願いします。



## 副部会長の選出

### 【富田部会長】

自己紹介が終わりました。続いて、審議に入る前に一つ決めなければならないことがあります。

この子ども部会には、設置要綱と言いまして、部会の決め事をまとめた要綱というものがあります。その設置要綱により、部会長と副部会長は、部会委員をもって構成すると決められています。

副部会長の役割は、部会長の補佐と、部会長に事故等があったとき、急に都合が悪くなったときなどの代理という役目になります。副部会長の決め方ですが、要綱上では互選、お互いに話し合っで決めることとなっています。

これから、この副部会長を決めたいのですが、皆さんは今日初めて会ったばかりですので、なかなか互選は難しいと思います。それで皆さんに問いかけたいんですけども、この中で副部会長をやりたいと立候補される方はいないでしょうか。

(一戸委員挙手)

いま、一戸さんから立候補ということで手があがりましたが、他の方はよろしいでしょうか。では、一戸さん、副部会長をどうぞよろしくお願いします。

それでは、これから子育て支援施設の見学に出発します。バスで現地に行き、戻ってきてお昼を食べた後グループ討議を行いますので、よろしくお願いします。

### 子育て支援施設見学

(2グループに分かれて見学)

#### トコトコくらぶ



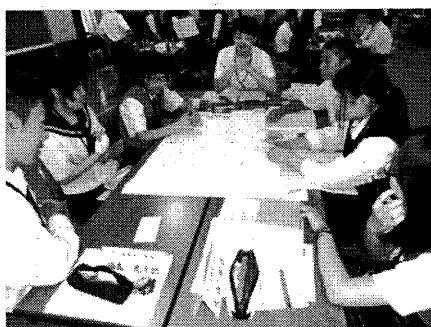
#### ねっこぼこのいえ



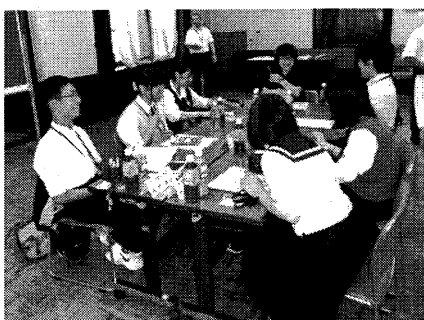
### グループ討議

(3グループに分かれてグループ討議)

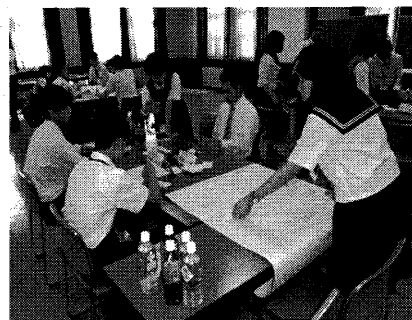
Aグループ



Bグループ



Cグループ



### 中間発表

#### 【Aグループの発表】

これからAグループの発表を始めます。まず、今日の見学の感想について順番に言っていきます。

・私は普段少子化について考えたことはなかったのですが、今日訪れた施設で少子化の事だけではなく、普段の子育てで大変な事などを知って、充実した活動になりました。

・施設を訪問して思ったことは、やっぱり小さい子と触れあうことは楽しいですし、それを、周りの人たちに伝えたいなと思いました。

・今日、見学に行って、子どもたちと触れあえて、こういうのを守っていかなくてはいけないなとすごく感じました。

・ちっちゃい子たちがいて、保育士の皆さんが大変そうに走り回っていたんですけど、自分が今までいた環境が、いかに当たり前じゃなかったのか、よくわかった1日になったなと思います。

・私は、少子化について普段あまり考えることはなかったのですが、見学や話し合いをして、身近に感じる事ができて、良かったなと思います。

・私は普段、小学校3年生から4年生と中学校3年生までを相手にして、よく子どもと遊んでいるのですが、今回は2歳位の子が多くて、いつも自分がやっているより子どもの扱いがちょっと出来なかったのですが、こういう教え方があるんだとか、みんなこう考えているんだなってことが分かって、すごく楽しい練習になって良かったです。



#### 【討議内容発表】

私たちがまとめたテーマは、①保育園や幼稚園を増やす取組について、②子育てをしやすい環境づくりで、このふたつについて考えてみました。

出た案としては、まず最近の小さい子たちは家にこもってゲームをすとか、家での活動が多いので、面白い公園を増やして外に出てきてもらって、コミュニケーションを増やすという案が出ました。結論にもまとま



っているのですが、結論は別の方が発表してくれるので、それ以外の意見を出したいと思います。

あと出た意見としては、老人ホーム等に子どもたちと一緒に訪問して、認知症の高齢者の方とかに昔の知恵を教えてもらうという提案がありました。

あとは、保育園などへの送り迎えが出来ない家庭もあるので、そのために、バスなどの送迎の充実を増やすといいという案が出ました。

テーマ①の結論は、中高生が保育園や幼稚園に行ってその仕事を体験したり、幼児と触れ合う機会を設けたりして、保育士のことについて知るという機会を作るのが大切だという風にまとめました。

テーマ②の結論については、子どもが生まれても親が充実して過ごせるまちづくりをするために、2つ方法があります。

1つめが、子どもと触れ合う施設やボランティアを増やす。もう1つが、産休・育休時の手当や、医療を充実化させることです。

今回は、結論①②を実行するために、自分たちに何ができるか考えたいと思います。以上でAグループの発表を終わります。

#### 【富田部会長】

ありがとうございました。午前の見学で、非常にいい体験をして、また、体験を元にして、発表内容をまとめてくださいました。

それでは、次にCグループに発表をお願いします。

#### 【Cグループの発表】

・まず今日の感想は、保育所みたいな所に行ったのですが、外遊びをする子ってこんなに元気なんだなって、これは自分のまちにいても札幌に来ても同じなんだなと思って、なんかすごい微笑ましかったです。

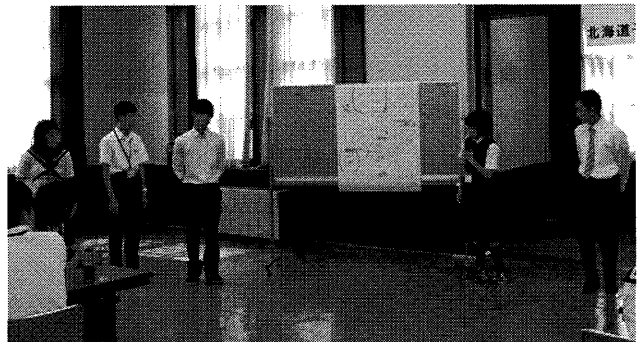
今回こういう話し合いをしていて、後で発表するんですけど、少子化についての問題は、自分が普段思っているより、全然深刻なんだなって思いました。

・今回、子育て支援の保育所のようなところに行ってきたのですが、自分も小さい頃、そういった所において色々な人と関わった経験があって、今、やっぱりそれがコミュニケーションとして役立ってますし、そういったことが重要なんだなっていうのは、今回行って改めて思いました。

だから、そういったことをやっていくことによって、子どもたちが自分の思い描くように羽ばたいて行けるんじゃないかなと、少子化は進んでるけど、保育園とかがあることによって、その子たちの未来が開くのではないかなと改めて思いました。

・子育て支援施設に行って思ったのは、2歳の子どもでもしっかりしてるなと思いました。自分は授業でも、北海道総合計画の子育てについて調べているのですが、それに活かしながら、いい方向につなげたいなと思いました。

・今回施設を訪問して、幼児から高齢者まで幅広い方が施設に来ていて、普段の交流ができていて良かったと



思いました。それと幼児と触れ合うのは初めてでしたが、触れやすかったので、こういうのを他の方にもしてもらって、もっと保育士の人が増えたらいいなと思いました。以上です。

・今日は2歳の子と森を探検して、一生懸命これは松ぼっくりなんだよ、これはお水なんだよって色々な事を教えてくれて、本当に子どもって可愛いなと思いました。

今回のように少子化について話し合うことは、学校とかでもあまりないので、本当にこのような機会を設けてくれて感謝しています。今日はありがとうございました。

#### 【討議内容発表】

Cグループでは、まず、少子化が起こるには根本的に何が原因なんだろう、どうしてこういう事になってしまおうだろうということを話して、最終的にこの発表用紙を見たらわかると思うのですが、お金の面が非常に出てきて、資金面で難しいから子育てが出来ないのではないかということになりました。

後は、そのお金を得るためにはどうすればいいだろうということを考えて、ふるさと納税を使って道に税金を落とすとか、養育費のことを言えば学業費用の返還とか、そういった事がつながっていく事によって、仕事につながってきて、親が働きやすい環境ができる。

そして、働きやすくなる事によって、子どもが産まれたら保育所などに預けることができ、社会の循環が良くなっていくのではないかなという風に話はまとまっていきました。

後は、地域の関わり合いで、小さな行事など、そういった事で色々なコミュニケーションが取れて、子どもたちにもいい影響が出るんじゃないかというような話になりました。次回は、意見の多かったお金の部分を掘り下げて考えていきたいなと思っています。以上です。

#### 【富田部会長】

子育ての話から、色々と発展させていきましたね。どうもありがとうございました。

では、最後にBグループから発表をお願いします。

#### 【Bグループの発表】

・今日の感想です。僕はねっこぼこという施設にお邪魔して、幼児達と関わらせていただきました。その施設は幼児・乳幼児がメインだと思っていたのですが、中学生とか大学生の方とかもいたりして、すごい年齢層が幅広いところでした。

そこで皆さんのお話を聞かせていただいたりして、働いているスタッフさんはすごい安い給料で働かれているという事で、そんなに切羽詰まっている環境なんだな、少子化というのはあるでしょうけれど、もっと子どもを見る人が重要なんだよなと思いました。まとまってないのですが、これで終わります。

・今日の午前の研修では子育て支援拠点に行って、そこは2歳児が中心で保育園みたいな所だったのですが、その子たちと一緒に森の中に行ってきた。自分の子どもの頃を振り返ると、森の中に行くようなことってなかったので、小さいうちに、小さいうちだからこそ、できるような事が保育園とかの時期にはあるのかなあ



と。小学校に入ると制約があってできない事も出てくるので、小さいうちに、できる事を沢山やっておくとい  
いんじゃないかなと思いました。

そのためには、保育所や幼稚園の役割はすごく大きいと感じるので、次回に向けて、小さい子どものために  
も、僕たちに何ができるのかを考えていきたいと思います。

・私は午前中、2歳の子と一緒に森に行っただけですけど、私自身、小さい子があまり得意ではなくて、どうや  
って接したらいいのかわからなかったのですが、実際に手を繋いで歩いてみたりとかすると、最初は不安  
だったんですけど、やってみるとそんなに深く考えすぎなくても、声をかけたら反応してくれたりとかして、  
やっぱり小さい子ってすごい可愛いなと思いました。

そして、今日最初の自己紹介の時に、私は、私自身あまり子どもが欲しくないと思っていた、その考えを変  
えたいと思っていたのですが、実際触れ合ってみたら、やっぱりすごく可愛いし、自分も将来、子どもを持っ  
てどっかに遊びに行ったりしたら楽しいだろうなと思うことができました。ありがとうございました。

・私は、今日午前中に2歳児の子どもと触れ合ってみて、実際、自分も保育所に通っていましたが、高校生と  
かと触れ合った事が全然なくて、今日はいい機会だったので、色んな地域でもこういう活動を増やせるといい  
なと思いました。

・私の地域では、こういった児童館とかそういう施設がないので、今回の午前中の体験は、すごく良い体験に  
なりました。小学生や小さい子どもが来るのかなと思っていたのですが、幅広い世代がいて、みんなで交流で  
きるのはとてもいいなと思いました。ありがとうございました。

・私は午前中、2歳児の子と森の中で遊んできたんですけど、子どもが元気に走ってたりすると、こっちまで  
元気になってくる感じがして、このまま少子化が進んでしまうと、なんか寂しくなっちゃうなって感じはしま  
した。

あまり今日まで少子化について深く考えてなかったの、こういう風にちゃんと話し合えたりとか、触れ合  
う事ができて良かったと思います。ありがとうございました。

#### 【討議内容発表】

私たちBグループは、まず最初にテーマに沿って、大人も子どもも、自分たちを含め楽しめるようなイベン  
トを作るにはどうしたらいいかを考えて、地域と連携するとか、すごい大きな内容とかも出てきました。

それをまとめて、今、この発表用紙に、全部自分たちの住んでいる各地域のお祭りが書いてあります。

お祭りというのは、各地域の伝統とかに中高生も一緒に参加できるし、お祭りに参加するのは中高生だけ  
ではなくて、小さい乳幼児の子も参加できるし、そのお祭りの伝統を伝えるのは地域のお年寄りの方だったり  
するので、そういった交流を深めるには、やっぱり、ここに書いてあると思うんですけど、お祭りがキー  
ワードになるんじゃないかなと思いました。

私は札幌の手稲に住んでいるんですけど、手稲では、小さいですけど神社のお祭りがあって、その神社のお  
祭りは、例えば演歌歌手の人が来てくださったりとか、地元の中学校の吹奏楽部がコンサートを開いたりとか  
しています。後は出店も普通の焼き鳥とかだけじゃなくて、輪投げとか小さい子も楽しめる出店が増えていて、  
でも出店とかは基本的に全部大人が運営しているので、そういう部分を中高生の自分たちが運営したりとか、  
関わったらという感じに思いました。それでは、各自、自分の地域のお祭りを紹介してもらいます。

・私はまず、高校がある知内町について紹介します。知内町では、8月14日にサマーカーニバルというのが

行われています。そこでは、北島三郎さんが来て、コンサートを開いていました。

また、自分の地元の福島町では、7月に七夕祭りがあり、大人から子どもまで、短冊に願い事を書いて飾っていきます。8月の時期には盆踊りをやって、大人の人が子どもに盆踊りの踊りを教えてくれて、それをみんなでも楽しくやっています。

・私は、この一番端っここのえりも町で、海産物ですとか、風が強いことで有名で、夏祭りやそういうフェスティバルが多いんですが、その中で、いけすに鮭をはなして、大人から子どもまでが、みんなでいけすの中に入って素手で取るという交流や、「駒踊り」といって、伝統芸能なんですけど、地域の人とか中学生とか小学生もやっていて、みんなで取り組んでいます。

・私が住んでいる釧路では、「霧のまち釧路」という特徴を生かして、毎年「霧フェス」というのを行っています。霧フェスは、霧を使ってレーザーショーを行ったり、色々とイベントがあつたりするので、小さい子どもでも楽しめるような感じになっています。

・隣の小樽なんですけど、小樽には夏冬それぞれに大きなお祭りが1つずつあります。

まず夏は、先月7月の29日か30日にやっていた「潮（うしお）まつり」というものです。そこでは小樽市内の色んな所から小中学校から町内会から集まって「ねりこみ」というものを行って、結構長い距離なんですけど、それをみんなで踊りながら歩きます。ここで、学校だけに限らないで、地域全部を含めたグループでやっていけば、色んな年代の人に踊りを教えてもらって、それをつなげていく事ができるようになるかなと思います。他にも潮まつりではイベントがあつたりして、今年は小樽の大学が謎解きのイベントをやっていたのですが、これに小樽の歴史等を絡めていくと、多くの人に関われるようになると思います。

冬には「雪あかりの路」というのがあって、それは結構きれいなお祭りで、スノードームの中にキャンドルが入っていて、それが夜光るのですが、写真に写すときれいなので色んな人が来ます。それは自分たちも作ることが出来て、雪を固めて中にろうそくを入れるだけなのでかなり簡単で、僕たちの学校も老人ホームとかに作りに行ったりするので、冬でも色んな人と関われるようになっていると思います。

・僕が住んでいる富良野市では、へそ祭りという北海道のへそにちなんだお祭りがあるのですが、これは大人から子どもまで、へそ踊りというのを楽しんで行う事ができます。すごい幼児の方が来たりするんですけど、その子達には、「はいはいレース」という、子どもたちを四つん這いではいはいして競わせたりするっていう感じのレースとかもあって、本当にちっちゃい子から大人まで本気でへそ踊りを踊ってみたり、おじさんたちやお兄さんたちが太鼓を叩いてくれたりと、色々なイベントがあります。こちらは来年50周年を迎える事で来年はすごく盛り上がりすると予想されます。

こうして、僕たち色々調べたんですけど、次回に向けては、北海道内の色々なお祭りを調べて、どのように中学生や高校生が祭り全体に参加し、大人から子どもまで楽しめる祭りを作っていくかという事を目標にして、次回に繋げられたらと思います。これで終わります。

#### 【富田部会長】

ありがとうございました。非常にユニークな発表だったと思います。

3グループの発表が終わりましたが、何か各グループで言い忘れた事とか、そういう事はないですか。大丈夫ですか。

それでは、残りあと5分くらいなので、私の方で少しまとめて、今日の審議を終了したいと思います。

## 総括コメント

【富田部会長】、

まず午前中には、皆さん本当にいい体験をされてきたんじゃないかと思います。お話の中にもありましたけど、子どもたちと触れ合ってすごく可愛かったですとか、やっぱり子どもっていいなと思ったとか、そういう感想がありました。今日皆さんが子どもたちに関わり、子どもたちも、ちょっと大きなお兄ちゃんお姉ちゃんたちが来たって事で、すごく喜んだと思います。そして、喜んだ子どもたち、きっと皆さんに笑顔を見せてくれたと思いますが、皆さんも、その時の子どもたちの笑顔を見て嬉しかったんじゃないかなと思います。その気持ちを、ぜひ忘れずに持ち帰っていただきたいと思います。

きっと皆さんのご両親もそうやって、皆さんが小さかった時に皆さんが嬉しそうな顔をする、それが親として嬉しくて子育てを一生懸命して、皆さんをここまで育てられてきたのかなと思います。そういう思いをこれから紡いでいかないと、やっぱり少子化っていう所は歯止めがきかなくなっちゃいますので、ぜひ今日体験したその思いを大切に持ち帰っていただきたいと思います。

それから、戻ってきてからの議論ですが、皆さん本当に鋭い視点で色々と議論をいただいて本当に驚きました。Aグループは保育園や幼稚園を増やす取り組みですとか子育てをしやすい環境づくりという事で、子育てのための環境をどうやって整えるかというような事を中心にお話しされたのかなと思います。そこから付随して、色々と公園の話ですとか、昔の知恵を教えてもらうですとか、そういう所にも話が及んだようで、非常に環境づくりという所に着目した所が素晴らしいと思いました。

2番目に発表されたCグループは、色々議論する中で、お金の問題ですとか、親が働く環境づくりですとか、少子化って事に繋がっている多方面の問題まで広げて議論された所は、本当に素晴らしいと思いました。それから地域の関わり合いという所、ここも、いま地域の繋がりが薄れてきているという事で、子育てだけの問題ではなく、高齢者の問題や地域の繋がりがづくりという事が、非常に問題になっています。そこまで視点を広げられたという所が素晴らしいなと思いました。

最後に発表されたBグループ、お祭りという事に着目された所、非常にユニークな視点で面白かったです。お祭りといいますと、やはり多世代の交流しやすい場ができますので、先ほどの体験の話などを通して、色々な世代が関わることの必要性というような事をおっしゃったのかと思います。色々な世代と一緒に楽しんで、関われる場面ということで考えると、お祭りというのは非常に参加しやすいイベントなのかなと思いますので、そういう点を取り上げられた所が、本当になかなか無い着眼点で、良い議論をされたなという風に思いました。

少子化について普段あまり考えたことがなかったとおっしゃった方もいらしたのですが、本当に皆さんよく勉強されて、議論に参加されていたと思います。私が中学生・高校生の頃の事を考えますと、ここまで真剣に世の中の事を考えていませんでした。もっと低レベルな事を考えていました。そう考えると、皆さん本当に、真剣に社会の事を考えてらっしゃるなという風に感じました。

逆に、皆さんの世代がそういう事を考えなきゃならないほど、世の中の少子化という問題が、切羽詰まった状況に、今なってきたしまっているのかなと思います。逆に言えば、私の中高生だったころには、そこまで私の世代が考えなくてもなんとかなっていた、それが皆さんも真剣に考えなきゃならないくらい切羽詰まった状況になってしまっているのかなという事を、今日ひしひしと感じました。

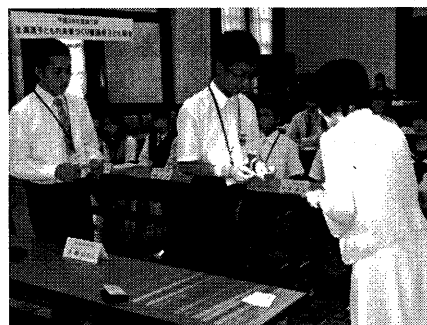
今日はここまでの時間ですので、皆さんが今日体験されて思った事、それから課題と感じた事、これから議論したい事、各グループ発表していただきましたので、それを皆さんと一緒に共有するところまでにしたいと思います。次回、少し時間は経ってしまいますけれども、12月に第2回目の子ども部会が予定されています。2回目は議論の時間が沢山あると思いますので、今日皆さんと共有したことを次回に生かして、次回じっくりとどういう対策を取っていったらいいかですとか、そういう議論を進めていきたいと思います。

12月の第2回目の前に、事務局から皆さんに、次回の議論に向けて今回の内容を整理したものを送付しますので、そういったものを参考にしながら、次回に向けて色々と考えを巡らせてきていただきたいと思います。それから、昨年の委員の方々の中には、ご自分の学校で、少子化等についてどうしたらいいのかという意見ですとか、思っていることを聞いてきてくださったり、色んな情報を自分で調べてきてくださったりという方もいらっしゃいました。そういう取り組みをしていただけますと、また次回の議論がより深まるかと思しますので、皆さんも、色々と課題を整理しながら、第2回目までの間に情報収集などを進めていただけたらと思います。

それでは予定の時間になりました。今日は、午前は体験、それから午後の討議とタイトな日程でしたが、ここまで議論していただいて、本当に感心しました。今日は皆さんありがとうございました。

## 名刺交換

- ・高橋知事入室
- ・知事と子ども委員の名刺交換



## 高橋知事の挨拶

## 【高橋知事】

皆さんこんにちは。夏休みの中、札幌の方もいらっしゃいますが、全道各地からお集まりいただき、誠にありがとうございます。

この、子どもの未来づくり審議会の子ども部会につきましては、毎年夏の時期、そして12月の時期と年2回、現役の中高生の皆様方にお集まりをいただき、それぞれテーマを決めて色々な議論をし、提言をまとめていただくという事をお願いしております。そして皆様方の先輩委員の方々のご提案を踏まえて、実際、我々の道政上の子育て支援策として、あるいは少子化対策として、具体化したテーマもあります。



今年のテーマは、「若者の保育士体験の機会を通して、子育て支援の充実を考える」となっております。

ぜひ皆様方、周りで色々な取り組みもおありになるでしょうし、妹・弟や姪っ子など、色々身近なところで感じて、また聞いていること等について、どんどん意見を出して、そして次回の12月の部会、その前に一旦それぞれの地元にお戻りになって、ご家族やクラスメート、又はご近所の方や友達などと色々相談し議論して、また提案に持って行っていただきたいと、そんな風に思う次第であります。

今日は本当にありがとうございました。

## 記念撮影

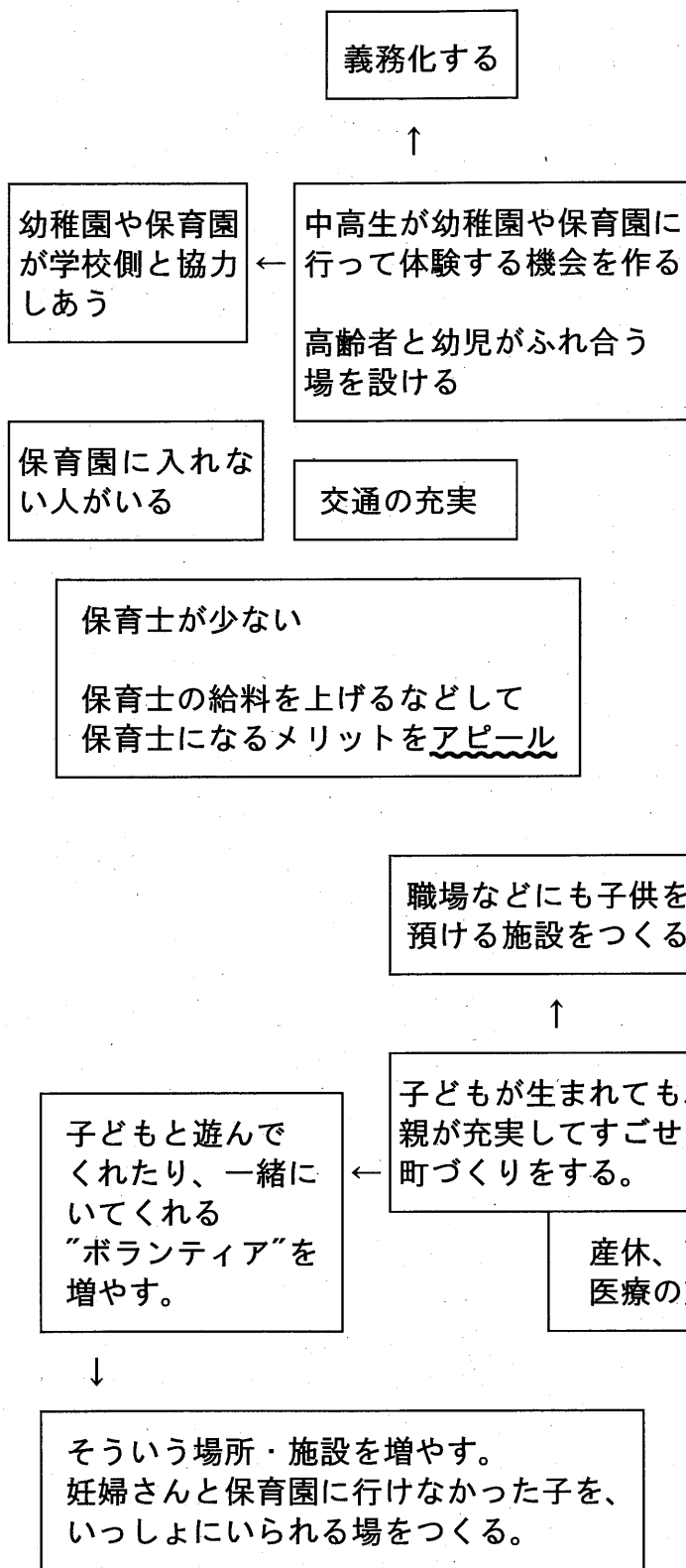
- ・ 知事と子ども委員の記念撮影
- ・ 知事退席

## 閉 会

- ・ 事務局からの連絡事項



# Aグループ



テーマ

- ① 保育園を増やす取り組み
- ② 子育てしやすい環境づくり

結論

- ① 中高生が保育園や幼稚園に行き、体験してもらう機会をつくり、保育士のことを知ってもらうために、場をつくる。
- ② 子供が生まれても、親が充実してすごせる街づくりをするために…
  - ・ 子供とふれあう施設やボランティアを増やす。
  - ・ 産休、育休時の手当や医療の充実化をさせる。

次回

結論①、②を実行するために、自分たちに何ができるか、考える。



私の街の祭り！（小樽）

潮（うしお）まつり

…ねりこみ。町内会、  
学校単位で街を  
練り歩く

…イベント？今年

は  
小樽商科大学による  
謎解き

→ 学校も含めた、町内会・地  
域・OBによるひとつの大きな  
グループをつくる（様々な年代  
を取り込み、出会うきっかけと  
する）

→ 歴史とも絡めると、いろん  
な人の手を借りて進めていく  
ことになるはず

小樽雪あかりの路

…見る：スノードームの中にキヤ  
ンドルを灯してきれい。

…若者にも人気（写真映え？）  
…作る・造る・創る

必要なものはろうそく程度で

コスト・手間がかからない

グループホームに作りに行く

札幌市手稲区のお祭り

神社のお祭りがあり、地元の中学校の吹奏  
楽部のコンサートや、演歌歌手のコンサート  
や出店があり、たくさんの方々が楽  
しんでいる！

出店も輪なげなど、小さい子も楽しめる内容  
があるが、その運営は大人がやっているの  
で、中高生が行うと更に活発になると思う。

富良野市には、へそ祭りがあり、  
大人から小人までへそおどりを楽しんでいます。

来年50周年を迎えることもあり、  
盛り上がるのが予想されます。

釧路では、「霧のまち釧路」という特徴を生かして、  
毎年「霧フェス」という大人から子どもまで楽しむ  
祭りを行っています。

霧をつかったレーザーショーなど、釧路の良さを  
最大限に引き出しています。

しかし、他の地域に広がってなく、  
毎年、特徴が最大限に生かされていないことも  
あるのが、難点です。

知内町の祭り

8月14日にサマー

カーニバルというお祭  
りがあります。昨年は、  
北島三郎さんが来ま  
した。

川でとれた魚を焼い  
たり、特産物のカキや  
ニラも売っています。

福島町の祭り

7月には、たなばた祭りがあります。

大人から子どもが短冊にねがいを書いて、  
笹につけます。

8月の1、2日には、盆踊りがあります。

みんなで円を作って、踊り歩きます。

踊り終わったら、抽せん券がもらえて、見  
事当たったら、ごうなけい品がもらえま  
す。

私の町では、海産物が有名で、お祭りでは、  
鮭をいけすにはなして、大人から子どもまでみ  
んなが素手でとる、というイベントがあります。

えりも町のお祭りは、  
子供～大人まで楽しめます。

## Bグループ 大人から子どもまで楽しめる祭

# Cグループ

## 仕事・働きやすさ

親が働きやすい町

→ 保育所

→ 職場

育児休業が  
取りにくい。

男性も育休を  
取りやすくする。

母親・父親の  
「産休」「育休」が  
とりやすいまち。

家でできる仕事を増やす。  
→育休が取りやすくなる。

育休の決まりを緩和する。

## 遊び場

子どもたちのあそび場を  
もっと増やす（公園）。

公園がたくさんあれば楽しい。  
（室内遊技場でも楽しい。）

家族連れや子供を対象とした  
大型の公園があったら  
いいと思う。

## お金

子育て支援金の額を  
もっと増やした方が  
いいと思う。

収入が少ない

高校生まで  
医療費無料

用具の給付  
（学用品）

勉強する場

↓  
収入ふえる

↓  
子ども産みやすい

景気が良くない。

最低賃金を  
引き上げよう

通学費の返還

出産時の手当て

- ・ 働き口
- ・ 手当
- ・ 支援

晩婚化が  
進んでいる

保育料の無料

若者の選挙率の  
低下

子ども手当を  
増やす

ふるさと納税を  
使う

## 地域との 関わり合い

学校内での集会や、  
他校との関わりを  
増やす

地域の行事が増えれば、  
子どもが外に出る  
機会も出来て良い  
と思う

中高生と幼児・小学生が  
関わる場があれば、  
みんな楽しい

地域ごとでの交流会  
をつくる

マタニティのふれ合  
いの場などがあれば  
いいと思う

若い人たちが集まれ  
るような施設を作って  
若い世代が集まり  
やすい所をつくれたら  
良いと思う

## 環境

それぞれの子ども  
たちに合わせた、  
子育ての場を作れ  
たら良いと思う

自然とふれ合える  
ような環境を  
作ったら良いと思う

## 保育

保育士体験や、保育園の  
見学などをする

実際に子育てをしている  
人から子育ての楽しさを  
聞きたい

保育士になりたい人が  
少ない

保育所を増やす